

ご用命・お問い合わせ先
アペックス産業株式会社

電話 03-3455-6474
FAX 03-3455-6558

〈詳しいご案内は当社のホームページをご覧ください〉
URL <http://www.apex-sangyo.jp>

●切り取って保存してご利用ください。

APEX CLUB '16/11

アペックス産業株式会社 第42号

『APEX CLUB』
発行 2016年11月1日(通算42号)
発行所 アペックス産業㈱「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
ホームページ <http://www.apex-sangyo.jp>
発行人 元木 貢 (編集委員)山口力広、高塚章夫
佐々木 健
(事務局)齊藤久美

ギャラリー

一盛 和世

★略歴
一盛 和世(いちもり かづよ)
長崎大学客員教授
長崎大学熱帯医学研究所フィラリアNTD室ディレクター
James Cook University プロフェッショナルリサーチ
フェロー
元世界保健機構(WHO)フィラリア症対策統括官

ロンドン大学衛生熱帯医学校で博士号取得。
世界保健機構で顧みられない熱帯病の対策に携わる。
太平洋地区のリンパ系フィラリア症対策PacELFチーム
リーダーを経て、本部(スイスのジュネーブ)で世界リ
ンパ系フィラリア症制圧計画を担当。



長崎大学「世界モスキートデイ」イベント 蚊と蚊がもたらす病気について知ろう!



ヒトスジシマコ劇場



長崎大学ホール本会館

清島の講演会場



蚊博士認定証と
ロゴ缶バッジ授与式



初めての顕微鏡



蚊の卵の観察



池にボウフラはいるか?
野外の
産卵トラップを観察



熱帯医学
ミュージアムツアー



みんなで記念撮影

★八月二十日の世界モスキートデイにちなみ、長崎大学では世界モスキートデイ2016イベント「数学入門」と「数学教室」を開催しました。
「数学入門」では大人向けに、蚊の生物学的知識、蚊媒介感染症の対策などについて講演会を、子ども向けにはヒトスジシマカの着ぐるみによる寸劇など、ワークショップを行いました。
「数学教室」では、小中学生を対象に、顕微鏡を使って蚊を観察し、野外ではボウフラを見つけて生態系を考え、熱帯医学ミュージアムでは、世界の熱帯病について学習する機会となりました。参加者には「蚊博士認定書」と「ロゴ缶バッジ」が手渡されました。
私たちが長崎大学熱帯医学研究所フィラリアNTD室は、このような地域貢献活動を通して、子ども達が世界の蚊媒介感染症に対して興味を持ち、将来、熱帯医学、国際保健の分野で、国際的に活躍できる人材に育ってほしいと願っています。

おし籠

隣の力ボチャ

通勤途中に小さな菜園があり、さまざまな野菜が実っています。七月に入ると、隣の幼稚園との境の金網のフェンスに、カボチャの蔓が絡まっていました。そしてその蔓が成長し、やがて実が成り、その実が幼稚園側にはみ出し、収穫できるほどの大きさになりました。どちらに所有権があるのでしょうか。



知り合いの弁護士さんの話では、「民法233条に、隣地の竹木の枝が境界線を越えるときは、その竹木の所有者に、枝を切除させることができる。また、隣地の竹木の根が境界線を越えたときは、その根を切り取ることもできる」とのこと。つまり、カボチャの所有権は、あくまで菜園側にあり、幼稚園側にはみ出していても、勝手に取ることは出来ないと、勝手に取るとは出来ないと、この間にカボチャは、いつの間にか無くなっていました。誰が食べたかは定かではありません。

樹木殺虫奮戦記

毎年五月になるとチャドクガの季節がやってきます。チャドクガの幼虫は食性がツバキ、サザンカ等に限定されていますが、多くの学校で植えられているため駆除依頼が寄せられます。通常のスプレーで処理出来るとはいえず、毒針毛に触れると大変なので、注意が必要です。チャドクガ駆除が一段落すると、今度はモンクローシヤチホクやイラガ等のサクラを食性とするガの幼虫の出番です。サクラが相手となると手撒きとはいかず、動力噴霧器の力が必要で、五百ℓのタンクを積んで薬剤を噴霧します。サクラは学校周辺の歩道、車道に枝が張り出していることが多く、歩道を遮断し、迂回をお願いしても、スマホ片手に知らん顔で通る人も少なくありません。作業が終わると、辺り一面にモンクローシヤチホクの幼虫が落ちており、集めた幼虫からは、サクラの良い香りが漂ってきます。



退職された昭和六三年から平成十七年までの十八年間、非常勤取締役として、当社研究室の指導、新卒採用と育成に尽力され、今日の当社の基礎を築かれました。本紙の初代編集委員のお一人でもありました。心から感謝し、お悔やみ申しあげます。

虫めがね

去る四月十五日に、当社の元取締役だった白坂昭子先生が逝去されました。先生は東邦女子理学専門学校の(現東邦大学理学部)を卒業、東京大学伝染病研究所(現医学部研究部)に入所、寄生虫研究部の佐々木先生の助手となられました。佐々木先生は海軍軍医として南方戦線に従軍、日本軍を苦しめたマラリアの重要性にいち早く着目、媒介蚊であるハマダラカの研究をされました。復員後は東京大学に戻り、日本脳炎、ツツガムシ病、フィラリア病、日本住血吸虫などの研究により、日本古来の風土病を次々に根絶されました。日本衛生動物学会、ダニ学会、そしてPCO協会の設立にも尽力されました。



ありし日の白坂先生と当社研究室

おじやま虫 Q&A

イエシロアリ

当社が初めて捕獲したイエシロアリ

Q..羽アリが飛んでいます。アリでしょうか?シロアリでしょうか?
A..アリ(クワアリ)等の羽アリは、四枚の羽のうち前翅二枚が大きく、後翅二枚が小さい形ですが、シロアリの羽アリは、四枚ともほぼ同じ大きさです。シロアリの羽アリは、アリに比べてひらひらと弱々しく飛びます。

Q..その羽アリはイエシロアリでしょうか?
A..関東ではヤマトシロアリがよく見られ、羽アリは五月の午前中に飛翔することから多く、一方、イエシロアリは、温暖な関東以南に多く、羽アリは夕方から夜に飛翔が多く見られます。ヤマトシロアリの羽アリの体色は黒く、背に黄色い横線が見られます。一方、イエシロアリの羽アリはヤマトシロアリの羽アリよりもひとまわり大きく、体色は褐色です。

Q..駆除はどうしたら良いですか?
A..ヤマトシロアリ、イエシロアリ共に、建材の食害や家屋に羽アリの飛翔が見られたら、専門業者に依頼することをお勧めします。これらは、土中から家屋に侵入することが多く、床下の調査が必要となります。イエシロアリの場合は、巣が屋外にあることも多く、経路のあるスタッフによる詳しい調査が必要不可欠です。